

平成21年度 森プロ事業実績：可茂南部100年の森づくりプロジェクト（都市近郊林業）

（平成22年3月末現在）

	H20年度	H21年度				5カ年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	78	38	38	100.0%		283	
作業道(m)	2,550	5,000	6,780	135.6%	作業路含む	25,000	
間伐等	面積(ha)	10	44	25.38	57.7%	利用+切捨	221
	材積(m ³)	650	1,116	1,047	93.8%		5,246
備考	団地外実績：利用間伐12.86ha 搬出材積538m ³ 作業路開設2,320m						

H21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 0円/m³

施業集約化の状況

・平成20年度に実施した地区座談会で呼びかけた森林所有者が、今年度の事業地の大半を占めていた。このため、長期受委託契約書を締結していない森林所有者は戸別訪問による了解を得て、実施した。

施業プランの活用状況

・未活用で作成中

施業プランナーの養成状況

・施業プランナー1名

作業道の状況

・木材運搬を目的とする基幹作業路(W=3.0m,L=3,530m)と利用間伐を目的とした緊急管理路(W=3.0m,L=3,250m)を開設した。基幹作業路は主に尾根部分の開設で、来年度モデル団地内の別の箇所に移動する。

・設計・管理・先行伐採・開設は主に2名で実施している。

・昨年の経験を踏まえ、先行伐採1名、作業道開設1名で実施している。これは、作業を実施しながら線形の修正ができるというメリットもあるが、作業効率としてはあまりよくない。今後担当者間の連携を強化する必要がある。



図-1 開設状況



図-2 開設状況(丸太組み)

作業システムの状況

- ・基幹作業路より20メートル以内の木材のみを搬出しグラップル(集材)→チェンソーもしくはプロセッサ「リース」(玉切造材)→グラップル(積込)→トラックの作業システムで実施、利用間伐を目的とした緊急管理路ではグラップル(集材)→チェンソーもしくはプロセッサ「リース」(玉切造材)→フォワーダ「リース」(運搬)→トラック(積込・運搬)で行っている。
- ・利用間伐と伐捨間伐の事業地の区別に苦労している。



図-3 グラップルによる木寄



図-4 プロセッサによる造材



図-5 フォワーダによる運搬

その他

- ・未間伐林から木材生産林転換に向けたモデル林の調査・研究の継続(岐阜県森林研究所の支援)
- ・第5回地域森林管理・経営に関する研修会
- ・「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」フォローアップ委員会
- ・林地残材搬出推進事業
- ・日吉町森林組合研修
- ・平成21年度 作業路等の開設に関する現地研修会



図-6 地域森林管理・経営に関する研修会



図-7 フォローアップ研修



図-8 林地残材搬出推進事業



図-9 日吉町森林組合研修



図-10 作業路等開設に関する現地研修会

森プロの成果

- ・日報の整理方法と作業コストの算出
- ・各研修に参加することで、他の組織の作業路や作業道の技術を見ることで学習できた。
- ・人工林と天然林という区分でなく、流域的な森林管理の提案を実施することができた。
- ・切捨間伐から搬出間伐への第1歩が踏み出せた。
- ・モデル団地外からの事業実施希望
- ・管内の市町村内での作業道開設の実現

今後の課題

- ・日報の整理方法と作業コストの算出(作業区分ごとにより詳細に)
- ・利用間伐と作業路開設の技術の向上(木材生産増加に向けて)
- ・各役割分担の明確化(施業集約化面積と森林整備面積の増加に向けて)
- ・森林組合職員と森林技術者の意思統一(実施体制の明確に向けて)
- ・利用間伐と伐捨間伐の事業の見極め(事業実施根拠の明確化)